

## 「祝う会」を楽しみにしていた皆さんへ

地域医療魚沼学校 特別顧問 小林 英司

### 「第6回昭和上條医療賞」受賞を祝う会

「地域医療魚沼学校」は2011年(平成23年)に開校し、校長の布施克也先生を中心に医療者が職種を超えて相互に学び、オープンスクール、ナイトスクールなどを通じて地域の皆様と学びあってきました。生活習慣病を予防し、救急車も適正に利用され、小中学校での禁煙の授業によって喫煙習慣の抑制の効果が認められるようになりました。その成果が高く評価され、優れた地域医療への貢献に対して授与される「昭和上條医療賞」受賞の栄誉に輝きました。この偉業は、地元医師会とともに地道に進め、新潟大学医学部とも良好な関係を築いた布施先生ならではの思いです。そして高橋榮明先生(新潟医療福祉推進会議代表幹事)の推薦を受け、昭和大学医学部の地域医療振興に対する顕彰に選ばれたことは、学閥を超え、これからの地元立脚型の地域医療の未来像を示したものであらうと思います。

予定されていたお祝いの会ではそのことを紹介しようと思っておりましたが、まずは2019年12月16日、東京の昭和大学上條記念館での授賞式の様子を見てください。

新潟から授賞式に出てきたメンバーと会場にいち早く乗り込んでみんなで記念写真をパチリ(画像1)。



(画像1)

授賞式が始まり、受賞を受ける方3名が壇上に(画像2)。



(画像2)

そして我らが布施校長が紹介されました(画像3)。



(画像3)

そして木内選考委員長の選考理由が述べられました(画像4)。



(画像4)

以下、選考理由の原文です。

『布施克也先生は、新潟県魚沼地域の県立病院の院長として、地域包括ケアの実現のため、地域医療を担う専門職種間の連携強化、地域住民の啓発などを目的に、2011年度から「地域医療魚沼学校」を開設され、活動を主導されております。「学生・研修医が学ぶ」「多職種連携教育及び協働実践の場」「住民が学ぶ」を三本柱としたカリキュラムで、2018年までに延べ28000人が「地域医療学校」に学び、その成果の一つとして、2013年以降、医療費が全国の二次医療圏中最低を記録し続けています。このような幅広く継続的な地域保健医療への貢献は、昭和上條医療賞地域保健医療貢献部門の受賞にふさわしいと判断させていただきました。』

そして公益財団法人昭和大学医学部・医療振興財団の理事長 山本俊憲先生から賞状、メダルと副賞が手渡されました(動画)。



続いて受賞者の受賞講演となりました(画像5)。



(画像5)

小出で TMM に出席している皆さんと一緒に勉強してきたこと等にも触れ、素晴らしい受賞講演でした。受賞講演後は、受賞者を囲んで情報交換会が催されましたが、推薦者となられた高橋榮明先生が

お礼を述べられました(画像6)。



(画像6)

情報交換会では、選考委員長の木内先生(画像7)、昭和大学医学部前学長の安原先生(画像8)からお祝いの言葉をいただきました。



(画像7)



(画像8)

実はこの受賞報告の後に公開座談会が用意されていました。皆さんに喜んでもらうために事務局挙げ、受賞のお祝いが派手にならず、そしてとても素敵な心のこもった企画です。そこには特別ゲストとして、なんとなんと、郷土の宝・小林幸子さんが来てくださることになっていました。明日の医療を担う皆さん、地元の医療者、そしてなにより地域住民の方に‘びっくりゲスト’としてお名前を伏せさせて計画していました。

小林幸子さんは、この地域医療活動の重要性を支援くださり、ボランティアでお越しになる準備をして、当日の新幹線の予約もご自身でやってくださっていました。極めて感染力が強い COVID-19 の情勢で本会がどうなるか流動的なやり取りをしていましたが、超有名人でありながら、決して奢らず謙虚で、郷土愛を持ち、医療に携わる私たちこそが見習うべきものをお持ちのことに感銘を受けていました。

会は延期になりました、どうぞご自身の感染対策を十分に取られ、COVID-19 の鎮静化の後には、皆でまた集まりましょう。